

令和3年度静岡県緑化推進有識者会議 委員意見（概要版）

令和3年8月31日
WEB開催

1 令和2年度の進捗評価について

【渡邊委員】

- ・評価指標の設定が数値化しやすいものに偏っている。また、評価指標の設定がないものについても評価の土台に上げるべきである。
- ・管理指標について、数値化で評価されているものが多いが、緑化推進計画で大切なこととして、それぞれの事業で行う講習、活動により、人の意識がどのように変わり、実際にどのような緑化が進んでいったのか、ということがあり、それが管理指標からは読み取れないため、評価の仕方を数にこだわらず、満足度など数値に出ない部分も評価するといった工夫が必要である。
- ・教育分野では、学びが終わった後に必ず振り返りを行うことで理解度を測っており、緑化推進についても教育分野での評価手法を参考にして欲しい。

【水谷座長】

- ・進捗管理や効果の把握方法は進化させていくことが重要であるため、後期の事業個票ではその点を考慮して検討して欲しい。

【西森委員】

- ・取組そのものの手法がかなり似通ってきており、それぞれの取組の目標をもう少し明確にした方が良い。
- ・しずおか柵田・里地くらすの取組は景観を作っていく上で非常に重要な役割を果たすと思うが、予算が少なく取組事例もあまり明確でないので、もう少し力を入れて欲しい。
- ・オンライン化の効果について、コロナ禍でうまく活用できることがわかったので、今後も人を動かす予算よりは、オンラインをうまく使って緑化活動を支援することも打ち出した方が良い。

【水谷座長】

- ・県のように広域で事業を行うものについてはオンラインを併用することで特に良い効果がある。

【矢澤委員】

- ・オンライン化は是非活用して欲しい。また、アドバイザーの養成などでは実践の部分は必ず必要になるので、オンラインと実践の両方で実施して欲しい。
- ・おもてなし空間整備事業は終了になっているが、整備した花壇を今後どのように維持していくかが重要であり、そのあたりも個票に記載して欲しい。
- ・支店裁量枠の活用についてはプロの方が植物の種類やデザインを助言することが重要であり、それを踏まえた上で特色ある花壇づくりを進めて欲しい。
- ・芝が今非常に人気があるため、公園や植物園にある芝だけでなく、個人の庭にある芝についての教育、普及を進めて欲しい。
- ・芝の育種は他の県ではなかなか見られないことであり、民間企業の協力を得るなどしてもっと前面に出し、広めていって欲しい。

【水谷座長】

- ・学校緑化活動グループ支援事業はどのような目的、趣旨で設けたのか教えて欲しい。

【グリーンバンク】

- ・緑化活動するグループに地域の支援者を入れることを求めており、学校花壇を地域の人たちと一緒に作り上げていく、といったコミュニティー形成を徐々に広げていくことを目的にしている。

- ・芝生の普及については講座に参加してもらうことも重要だが、誰かが巡回して芝生の状態を把握し、管理のアドバイスをすることも重要で、現在はNPO法人グラウンドキーパーズや造園緑化協会に巡回の委託しているようだが、予算の問題で時間、回数が限られると思うので、園庭・校庭のそれぞれの特徴、困難度に応じて、養成した芝生アドバイザー、緑化コーディネーター及び芝草研究所のスタッフが巡回し、現状を把握するような仕組みを作った方が良い。

【飯塚委員】

- ・静岡県を始め、どこの地方公共団体も同じではないかと思うが、里山や棚田を維持管理していくことの理解度が不足しており、人の営み、つながりを理解してもらい、継続性、永続性がある事業であることを伝えていくことが重要である。
- ・芝生について、静岡県では良い回転が始まったと思っており、芝草研究所、NPO及び個人の連携がお互いの理解を得ながらうまく行き始めている例は全国にもあまりないので、この環境、仕組みを継続していくことが他の地域に対しても良い参考例になると思う。
- ・公共施設（県庁本庁舎）の緑化について、連携・協働の項目にチェックが入っておらず、農業高校や専門学校の生徒たちとの連携・協働をもっとアピールするべきである。
- ・静岡県が今取り組んでいる事業や自慢できるものを外にどれだけうまく伝えることができるか、ということがとても重要になっており、新たな角度で見せ方の工夫すべきである。

2 後期の取組について

【西森委員】

- ・建築においては今緑化が非常に重要なテーマになっているが、緑化推進計画で都市や農村に関する目標がある一方で建築に関する目標がないため、今後視野に入れて欲しい。

【飯塚委員】

- ・すべてのプロジェクトについて、SDGsのどこに貢献するのか、どこに役に立つのか、あるいはどのような形で関わりが重要視されるのか、というところをコメントに添えるようにして、県民に理解してもらえるよう努力して欲しい。

【水谷座長】

- ・いろいろな行政系の計画の中で、SDGsの目標のどの部分にアプローチしているかをアイコンも含めて書かれることが多くなっているが、この緑化推進計画もSDGsのどの目標にアプローチするものであるかを示していくことも検討してほしい。

【矢澤委員】

- ・栽培管理等については常に情報が新しくなっているため、新しいアドバイザーを育てる際には常に新しい情報を投げて欲しい。さらに、松枯れが問題になっているが、ナラ枯れという問題も出てきているため、ナラ枯れに対する補助も今後検討していかねばならないと思う。

【渡邊委員】

- ・管理指標の有無で、事業としてやる以上、管理指標がないということは県民としては疑問があるため、管理指標は何らかの形で設定すべきであり、SDGsを含めるのであれば管理指標が立つと思う。いろいろと柔軟な指標があると思うので、評価の仕方をより進化させていって欲しい。

【水谷座長】

- ・芝生化した園庭と校庭を維持管理していくために何が必要かというところ、人がそこを訪問して状況を把握したり、その園や学校の人と話すことが決定的に重要だと思っており、県が養成している芝生アドバイザーの方、緑化コーディネーターの方、芝草研究所の方を含めて、そのような人たちを総動員して、もっと芝生化したところを何回か訪問して現状を把握した方が良いのではないかと。またその辺は、後期の評価の時に、お聞きできればと思う。